

広報いんざい市長室

山崎山洋



7月に発行されたマンション情報誌『SUUMO』に、千葉県内の新築マンションの供給がある自治体を対象とした、「子育て街ランキング」が特集されていました。ランキングの項目は、「公園」

「医療」「保育」「教育」と4つの分野が設けられ、印西市は2つの項目で1位に位置づけられました。

そのひとつは「保育所の保育料が安い街は」で、所得税が年額30万円の世帯で3歳未満の子ども1人が通園するケースの月額を比較したものです。もうひとつは「小学校教員の数が充実している街は」で、児童100人当たりの小学校教員数に基づいて評価されたものでした。1位以外では、「子ども医療費の助成が充実している街は」で2位、「人口当たりの公園数が多い街は」で3位という位置づけで、各分野でおおむね高い評価を受けています。

調査対象が限られているとはいえ、子育てに関するランキングが高いことはよろこばしいことではありますが、課題がないわけではありません。保育に関しては、千葉ニュータウン区域内で乳幼児数が増加し保育需要が高まっており、希望する保育園に入れない状況になっています。

また、就労形態の多様化に伴い、延長保育・休日保育・一時預かり・病児病後児保育など多様な保育サービスに対応する必要性が高まっています。

8月からは児童医療費助成制度の対象が、中学3年生まで拡大しますが、子ども医療費助成制度などについても、手続きの簡易化や、児童医療費助成をより受けやすくするなどサービス向上すべき点もあります。

今後も子育てに関する施策の充実に努め、「子育てしやすいまち印西」を広められればと考えています。



耕作放棄地を解消しよう

8月は「耕作放棄地解消強化月間」



耕作放棄地の発生は、食料自給率の向上を阻害するばかりでなく、雑草の繁茂などにより病虫害の発生源や有害鳥獣のすみかになるなど、地域環境に悪影響を与えていることから、耕作放棄地対策は極めて重要な課題です。

県では8月を「耕作放棄地解消月間」とし、耕作放棄地の解消に向け、関係機関と連携し、重点的に啓発活動を展開しています。

また、市でも「印西市遊休農地再生対策協議会」と連携し、耕作放棄地の再生利用を促進するため「耕作放棄地再生利用緊急対策」に取り組んでいます。

◆耕作放棄地再生利用緊急対策交付金
引き受け手（農業者など）が行う耕作放棄

地の再生や、土づくりなどの取り組みを支援します。

◎交付金の種類と金額…次のとおり。
①再生利用活動に対する助成…再生作業（障害物除去および土づくり）。

・定額支援 5万円/10アール。
②施設等補完整備に関する助成…小規模基盤整備
・定額 2.5万円/10アール。

※①②の交付金は、原則、農業振興地域内の農用地が対象となります。また、そのほか諸条件があります。

詳しくは、下記までお問い合わせください。
農政課振興班（☎内線374）。



▲印西市防犯組合岩戸支部のみなさんと山崎市長（最前列中央右）



▲受賞した中央駅南支部のみなさんと山崎市長（最前列中央右）

◆印西市防犯組合岩戸支部が発足
印西市防犯組合は、市内の各地域と連携を図りながら防犯活動を積極的に推進している、自主防犯団体です。
この度、当組合に岩戸支部が発足し、20人の防犯指導員が誕生しました。
組合のみなさんは旧印旛村当時から自主防犯活動を行い、地域の安全に貢献しています。

◆中央駅南支部が防犯功労団体表彰を受賞
印西市防犯組合中央駅南支部が防犯功労団体表彰を受賞されました。
防犯の重要性を深く認識され、地域住民の防犯思想の普及指導活動へ尽力された功労に対し、社団法人千葉県防犯協会会長から表彰されました。

地域防犯に灯る結末の光

◆印西市防犯組合岩戸支部が発足
今後引き続き充実した活動が期待されます。

◆中央駅南支部が防犯功労団体表彰を受賞
印西市防犯組合中央駅南支部が防犯功労団体表彰を受賞されました。

【実施状況】
市民参加手続きを実施した対象事業数は、50事業で60件となっており、主なものは「印西市憲章および市の花、市の木の鳥、市の魚について」、「印西市地域公共交通総合連携計画の策定」、「環境白書の策定」などについて実施しました。
内訳は次のとおりです。
●市民意向調査手続き（アンケートなど）：実施回数6回、参加総数8,367人。
●市民説明会手続き：実施回数7回、参加総数152人。

【主な実施予定】
●行政改革大綱および行政改革実施計画の策定：市民意見公募手続き、審議会等手続き。
●市民意見公募手続き：実施回数11回、参加総数112人。
●審議会等手続き：実施回数170回、参加総数1,212人。

【平成23年度企画提案型協働事業】
公開審査会を開催
市では、市民と行政の協働によるまちづくりを推進するため、「企画提案型協働事業」を実施しています。
このたび、市民活動団体のみなさんから企画提案いただいた事業の公開審査会を次のとおり開催します。
期 8月19日（金）午後1時30分
場 文化ホール（大森）
定 30人。
※当日先着順。
市民活動推進課市民活動支援班（☎内線345・メールsim inkatudou@ml.city.inzai.chiba.jp）。

市では、市民のみなさんが積極的に市政に参加し、さまざまな施策に意見を反映させ、魅力と活力のあるまちづくりを進めるため市民参加条例を制定しています。
平成22年度の市民参加手続きの実施状況、平成23年度の実施予定は、次のとおりです。

●市民意見公募手続き（パブリックコメント）：実施回数6回、参加総数50人。
●市民会議手続き：実施回数11回、参加総数112人。
●審議会等手続き：実施回数170回、参加総数1,212人。

●次期総合計画の策定：基本計画に関する市民意見公募、市民説明会。
●男女共同参画プランの策定：市民意向調査手続き。
●第5期印西市高齢者福祉計画の策定：審議会等手続き。
※市ホームページでもご覧いただけます。

平成22年度市民参加手続きの実施状況

シリーズ・心の道標②

「お酒と病気の関係」

社会福祉課障害福祉班（☎内線268）

お酒は、「百薬の長」という言葉があるように、疫学データでも、「全くお酒を飲まない人よりも少しお酒を飲む人のほうが死亡率が低い」という結果があります。

しかし、大量にお酒を飲む人は飲まない人より死亡率が高いこともいわれています。

普通、飲酒してから酔いが回るまでには、30分から1時間かかります。今まさに真夏で、よく冷えたビールでもごくごく飲みたいところでしょうが「ゆっくり時間をかけて飲む」事をしなければ、短時間で適量を超えてしまい「この辺で飲酒をやめよう」と自制する事ができなくなります。さらには人によっては、急性アルコール中毒や二日酔いとなることがあります。

また、長期間の飲酒は、アルコールに対する耐性ができ、この「耐性」が、「アルコール依存症」の要因となるのです。「アルコール依存症」は、「関係性の病気」と言われ、「薬」で治すことができません。治療は、断酒しかありませんが、「断酒会等の自助グループや家族会など」を利用し、家族と共に治療する必要があります。

市では、社会福祉課障害福祉班で保健師・精神保健福祉士が相談に応じます。